



TOKYO ADACHI CAMPUS TOUR

東京あだちキャンパス

国際学部の学びの舞台は2021年に誕生したばかりの東京あだちキャンパスです。



ディスカッションスペース



はなはたステージ



図書館



AITADE HALL



ケヤキコート



食堂

グローバル・commons

東京あだちキャンパスには、「えんがわ・ラウンジ」「グローバル・ラウンジ」「グローバル・ルーム」の3つの空間からなる「グローバル・commons」エリアがあり、国際交流や語学に関するさまざまな資料を、くつろぎの空間でゆっくり閲覧することができます。
グローバル・ルームには、楽しく外国語の学習ができる「Language Garden (多言語学習ラウンジ)」も。ランチタイムには英語や中国語のネイティブ教員と会話できる「LG Lunch Chat (ランチチャット)」も開催しています。



Faculty of International Studies, Bunkyo University

国際学 の ホント

きっとあなたがまだ知らない「国際学」のこと

- 国際学入門
- フィールドワーク
- 対話型の授業
- ボランティア
- 正解のない学び
- ボーダーのない学び

現役学生による

国際学部 ガイド



文教大学 国際学部

東京あだちキャンパス

〒121-8577 東京都足立区花畑5-6-1 TEL: 03-5686-8577 (代)

- 【交通案内】 ●東武スカイツリーライン 谷塚駅から徒歩 約13分
- 東武スカイツリーライン 竹ノ塚駅からバス 約20分
- つくばエクスプレス 六町駅からバス 約15分

国際学部オリジナルサイト

<https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kokusai/>

デバイスによって読み取れない場合があります



お問い合わせ先

【入学センター】TEL: 048-974-8330

〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島3337



文教大学 国際学部

必修科目 「国際学入門」

国際学部1年生が「4年間、国際学部で何をどのように勉強していくのか」を最初に知る授業です。グループディスカッションなどを通じて、現代世界に起きている諸問題を多角的に見る力を養います。

「大学の先生ってなんか堅苦しそう」「国際学って、言語の修得だけを目指して学ぶこと?」そんなイメージを変えてくれる先生方が、講義して下さいます。国際学部での最初の学びをお楽しみください!(国際理解学科3年)

「国際学入門」では国際学部の4人の先生が担当しており、毎回講義のカラーがガラッと変わることが魅力です。国際学と聞いて明瞭なイメージがない1年生でも、様々な分野の概要を学ぶことができます。いわば、**自分の学びの軸を定める旅のような時間**だと思います。(国際理解学科3年)

「国際学入門」ではグローバル化や環境問題だけでなく、エコツーリズムや多文化共生など幅広いテーマを扱います。今まで深く考えたことなかった**「自分の当たり前」を見直す機会**をくれる授業だと思います。(国際観光学科3年)

国際社会における様々なテーマに触れることで、長いようで短い4年間に向けて、**「自分は何を学びたいか」を発見**できます!知らなかった「世界」を知る機会や、他の学生とのディスカッションも多く、大学生活においても入門と呼べる講義です!(国際観光学科3年)

茅ヶ崎市市民討議会のサポートをしました。年齢や職業も異なる市民が話し合うと、自分の目線だけではわからなかった地域の強みや課題などが見えてきます。こうした機会は、**講義だけでは得られない学び**です。まちづくりの現場はとても魅力的で、学びをさらに楽しいものしてくれます。(国際理解学科4年)

タイワークキャンプでは、移民学校の子どもたちと文化交流を行いました。学生主体で交流内容を考え、現場の生の声を聞くことができる点が魅力的な活動です。**現地の人々と同じ目線に立って考え続けること**の大切さを感じることができました。(国際理解学科4年)

現場や地域から学ぶ フィールドワーク

国際協力やリゾート体験、産学連携プロジェクト、地域おこし、インターンシップなど。実際に現場で体験するフィールドワークや体験型プロジェクトから学ぶことも、国際学部の学びの特徴です。

「ホノルルフェスティバル」に参加し、ボランティアを通して現地の方々との交流やハワイの文化に多く触れることができました。またハワイを**いつもとは違った新鮮な視点から見る**ことができるとても貴重な体験でした。(国際観光学科3年)

学生が
解説!

ここだから学べる 文教の国際学

「国際学」と聞いた時、あなたはどんなイメージを思い浮かべますか? 英語やスペイン語などの語学? 日本以外の外国を知ること? もちろんそれらも大切ですが、文教大学の「国際学」はずっともっと広大なもの。文教の「国際学」を知るためのキーワードを、現役の国際学部生に解説してもらいました!



話すことは好きで得意です。**学年学部問わずたくさんの仲間と交流**するうちに、傾聴や客観視が自分には必要であると学びました。より多くのアイデアを共有できるようになり、世界が広がったように感じます。(国際理解学科4年)

国際学部の英語科目では、ネイティブの先生とカジュアルに話すことができ、グループワークで**意見交換や会話を楽しみながら英語**を学んでいます!授業にも多くの幅があるので自分の伸ばしたい分野を選択することができます!(国際理解学科3年)

相手を尊重する 対話型の授業

異なる意見や価値観を尊重し合い、共に生きていくためには「対話」が重要です。ディスカッションやグループワークをふんだんに採り入れた授業やゼミナールで、ロジカルに伝える力を伸ばします。

入学当初、ディスカッションはとても緊張しました。変なことを言ってしまったらどうしよう...。でもいまは多くの授業で議論を積み重ねたことで恐怖心はなくなり、**発言も積極的に**できるようになりました。(国際理解学科1年)

成長の大チャンス! ボランティア

ボランティア活動は、支援を通してたくさんの学びを得る絶好の機会。支援の対象は、海外や国内地域、災害復興、子ども、教育など様々。活動の場も、サークルや学生団体、学外の団体など多数あります。

国際学部には「ボランティア入門」や「サービスマニカ」などの現場で社会課題に向き合う講義や演習の授業があります。外部実習は**発見の連続**です!(国際理解学科2年)

学生有志団体ぶんこ食堂では、多世代の交流を設け地域の人々の安心した居場所づくりと子どもたちに夢を与えるために活動しています。学生と地域の人々との交流を通して**広い視野で物事を見られるよう**になりました。(国際理解学科3年)

国際学部生中心のボランティアサークル「HOP」では現在二つの拠点を主とし、**外国籍を持つ人々に日本語のサポート**をするという活動をしています。簡単に楽しくできるボランティアなので、気軽に始めることができます!(国際理解学科3年)

学内でペットボトルキャップを回収し、NPO法人に提供しています。集まったキャップはワクチンに変わり、発展途国の子どもたちに届きます。成果を数値で見ることができると、**活動のモチベーション**になっています。(国際観光学科4年)

「答えがひとつではない」ということは国際学を学んで一番思うことです。国際学部の教職の授業においても、**できるだけ多くの視点から考え話し合う**ことで、その問題をより理解できるように努力しています。(国際理解学科4年)



国際学には正解がないと言われています。国際学を学ぶには協調性が重要で、異なる文化、宗教、国籍、ジェンダーなど、様々な人の考えを受け入れてみると、それまでとは**違う価値観を楽しむ**ことができます。これが、国際学の醍醐味ではないかと思います。(国際観光学科3年)

正解のない学び ボーダーのない学び

国と国との関係や問題だけでなく、あらゆる人々と共に生きるために学ぶこと、それが文教の国際学です。そこに「ひとつだけの正解」はありません。国境や人種、文化、学問など、あらゆるボーダーを越えて考え続けます。

国際理解学科

世界の仕組みを理解し、グローバルビジネス・国際協力の最前線へ

いまの時代に求められる国際社会の仕組みを理解し現状に対応する力、多文化共生のマインドや歴史をふまえて異文化を理解する力、高度な外国語コミュニケーション能力の修得を目指す国際理解学科。専門科目には3つの科目群を用意し、ビジネスプロジェクトや国際協力などの実践的な授業を通じて、「より善き地球市民」として日本社会・国際社会の課題を解決できる力を身につけます。

取得できる資格

中学校教諭免許状(1種)【社会・英語】〈国〉、高等学校教諭免許状(1種)【公民・英語】〈国〉ほか

国際理解学科

多文化共生科目群

主に歴史、思想、文化などの学習を通して異文化への理解を深め、世界の多様性を認識するとともに、多文化社会の実相とその共生を目指します。

国際社会科目群

主に国際政治、経済、法律などの学習を通して国際社会の仕組みを学ぶとともに、国際協力や平和構築など、より実践的な国際貢献を目指します。

英語教育科目群

国際社会で活躍するために必要な国際感覚を養い、英語コミュニケーション能力を高めるとともに、英語教育に求められる総合的な実践能力を育成することを目指します。

ゼミナール探訪

研究テーマ

東南アジア地域研究、文化人類学

渡邊 暁子准教授

東南アジアにおける移民やマイノリティを主な研究テーマとする渡邊先生。「グローバルフェスタJAPAN」「フィリピン海外フィールドワーク」など、ゼミ生や有志学生が参加できる国内外での活動も多数。

VOICE

ゼミナールではオンオフをしっかりと切り替え、積極的な態度で学生も真面目に臨んでいます。和気藹々とした雰囲気でのフィリピンの大学生と英語で共通課題について話し合ったりしながら、渡邊先生と共に課題意識を持ち取り組んでいます。(3年)

VOICE

物事の表層ではなく、人々の実際の声に耳を傾け考えることに惹かれ、ゼミに入りました。3年生のフィリピン研修では、個人では知ることができなかった世界を経験することができました。自らの目を通して得る学びはとても貴重な時間です。(4年)



ゼミナール探訪

研究テーマ

国際社会とことば、国際共通言語としての英語教育

生田 祐子教授

生田先生の研究テーマは、異なる言語を話す人々が意思疎通をする時に使う「リンガフランカとしての英語」の教育法。新しい時代を担う英語教師を育てるために、学生をリアルな英語世界へ案内します。

VOICE

実際に多様な英語世界を体験するために、国連での研修や途上国でのボランティア活動に自主的に参加する学生が多く、グローバル意識の高い学生が集まっています。3年のゼミでは全員が日本大学英語模擬国連に参加し、英語と異文化理解力を鍛えています。(3年)

VOICE

英語での模擬国連の経験を活かし、埼玉県の高校英語授業で模擬国連について教え、高校生たちの模擬国連活動をサポートしています。(4年)



ゼミナール探訪

研究テーマ

英語教育学、英語教員養成、英語教員研修

阿野 幸一教授

中学校・高校・大学の教員やラジオ・テレビ講座の講師の経験があり、英語教科書の編集代表も務める阿野先生。コミュニケーション能力育成のための英語指導法と教材開発を研究し、多くの英語教員を育てています。

VOICE

阿野ゼミでは、他大学と研究発表を行う合同ゼミを年2回実施し、教員志望の学生同士で高め合う貴重な経験ができます。また、多くの卒業生が英語教師として活躍しており、その様子を伺ったり、教員採用試験のサポートをお願いしたり、教員を目指す最適な環境です。(4年)



教員&テーマ 国際理解学科

赤坂 雅裕 道徳教育、特別活動

榎本 アンドリュウ 英語教育学、第二言語取得、英語教授法

大森 一三 哲学、倫理学、思想史等

金井 恵里可 公法(憲法、行政法)

北野 マグダ・レーナ 教育学英語教授法

久保庭 慧 国際法、国際文化遺産法

佐々木 優 国際経済学、アフリカ地域研究、途上国開発論、国際ビジネス論

塩沢 泰子 英語教育、パブリック・スピーキング、ディベート、教育演劇

杉浦 功一 国際政治学、平和学

孫 美幸 日・韓の平和教育、多文化共生教育

千葉 克裕 英語教育学、第二言語習得理論、神経言語学

塚田 穂高 宗教学、宗教社会学、日本研究

丸山 鋼二 中国研究、中国政治外交史

本浜 秀彦 比較文学、視覚文化論、国際日本研究

山田 修嗣 社会学(環境、まちづくり)

渡邊 三津子 地理学、アジア地域研究

国際観光学科

国際舞台や地域振興の現場で活躍する観光領域のプロを目指す

里山・伝統文化・和食・アニメの聖地巡礼など、インバウンド観光の隆盛により、多くの日本観光の魅力が見出され、観光の在り方が大きく変わろうとしています。この時代にあって、国際観光学科では、世界と日本の観光動向と観光客のニーズの両方を知り学びながら、今後の持続可能な観光の望ましい在り方、そしてあるべき未来を考え、活躍できる観光人材の育成を目指します。

国際観光学科

ホスピタリティビジネス科目群

旅行、ホテル、航空、飲食など、ホスピタリティ・マインドならびにそれを体現する具体的な産業について学び、「お客さま」の視点から見た経験価値を作り上げる能力を育成します。

マネジメント科目群

観光学を学ぶ上での土台となる知識や理論に関わる基礎的な能力を育成するとともに、変化する世界の実態をふまえての観光政策やリスク管理など、将来の観光産業を見据えた物の見方を養います。

観光プロデュース科目群

地域の観光資源を掘り起こし、地域の新たな価値を創造、発信するための専門知識とともに、まちづくりやアートの観光との関係を学び、観光を通じた持続可能な地域の創造や交流に貢献する実践的能力を育成します。

ゼミナール探訪

研究テーマ

エコツーリズム、サステナブル・ツーリズム、観光まちづくり

海津 ゆりえ教授

地域の自然・文化・歴史などの資源を掘り起こし、守り、伝え、地域振興に還元する「エコツーリズム」を通じた持続可能な観光の在り方を研究する海津先生。地域と協働しながら多数のプロジェクトに取り組んでいます。

VOICE

キャンパスのある足立区と隣接する草加市の魅力を再発見することをテーマにした「地元学」のプロジェクト。地元飲食店と協働して学内で弁当を販売したり、商店会加盟店のマップを作成したり、お祭りのお手伝いをしています。(3年)

VOICE

自治体や地域の方など学外の人へのヒアリングをもとに自分たちで企画を考えます。誰にとっても暮らしやすい街づくりが目標。学生が色々な立場の人と会い、多様な価値観に触れ、行動し、考えることを重視するゼミです。フィールドワークが多く、島や被災地にも出かけます。(4年)



ゼミナール探訪

清水 麻帆准教授

フィールドワークや地域（自治体・地元企業）協働での商品開発の取り組みを通じて「文化を活用した観光まちづくり」を実践的に学びます。対象文化は、食文化、音楽、伝統工芸、アニメ、ゲーム等多岐にわたります。

研究テーマ

文化経済学、都市政策論、コンテンツツーリズム、創造都市論

VOICE

先生に言われたから動くというより、学生自らフィールドに出て情報を集めに行くのが清水ゼミ。「20代女性」など異なる立場の視点に立って街を巡り、魅力を探すフィールドワークは新しい発見が多く楽しかったですね。皆で考案した『佐野ラーメンソフト』は毎年販売され、地元でも愛される商品になっていて嬉しいです。(4年)

VOICE

イスラム教徒の人に向けたハラル対応のランチボックスを企画しました。開発する上で何度も試作をしましたが、工夫し、納得のいくお弁当を作ることができました！地域の方と協力しながら活動ができたことは良い経験となりました。(3年)



ゼミナール探訪

小島 克巳教授

航空会社での勤務経験を生かし、航空や鉄道などの交通事業、空港などの交通インフラを中心に研究する小島先生。フィールドワークとして交通に関する施設や官公庁、企業へ多数訪問し、交通の歴史や政策を学んでいます。

研究テーマ

交通経済学、公益事業論

VOICE

もともとエアラインを志望していたこともあり、航空や鉄道、バスなど交通業界全体をカバーする小島ゼミへ。ゼミがきっかけで興味を持った交通のバリアフリーと心のバリアフリーが卒業論文のテーマになりました。小島先生は学生の相談に親身に添えてくださるし、卒論テーマに関連した記事や資料もよく送っていただきました。(4年)



教員&テーマ 国際観光学科

青木 洋高

フードツーリズム、地域プロモーション、地域活性化

小林 勝法

スポーツツーリズム論、大学教育学

種村 聡子

ホスピタリティ・マネジメント、人材育成、人的資源管理

黛 陽子

環境コミュニケーション、環境情報、インタープリテーション、情報デザイン、国際協力

生田 亨

旅行業論、ツーリズム産業論

菅原 周一

企業分析、企業価値評価

利根川 由奈

美術史、文化政策史、表象文化論

八木 良太

経営戦略論、マーケティング、ミュージックツーリズム

久保 泉

ホテルマネジメント論、ホテルサービス論、ホテル事業開発論

杉山 富士雄

経済成長論、ミクロ経済学、産業組織論

中井 治郎

文化遺産の観光資源化、オーバーツーリズム問題